

令和4年第3回定例会一般質問通告事項

6 月 16 日	柿本和彦議員（平成会）	質問方式：一問一答方式
	<p>1 マリンスポーツの安全・安心について</p> <p>(1) 海や川での水に対する脅威を正しく学ぶ機会が少ないように感じるがどのように考えるか</p> <p>(2) 近年、プレジャーボート、特に水上オートバイの危険な操縦が目につくが、どのように捉えているか</p> <p>(3) マリンスポーツやマリレジャーを楽しむ際のルールやマナーをどのような方法で指導・告知してきたか。また、マリンスポーツを積極的に推進していく計画の中にあって、水の事故に対する安全・安心をどのように周知していく計画か</p> <p>(4) 港で栄えたまちとして、海に親しむ市民の方が多いまちとして、交通安全計画の中に海上交通に関する計画が必要ではないか</p> <p>2 コロナ禍における青少年の体験機会激減について</p> <p>(1) 文部科学省が平成13年に出生した子ども3万人と保護者を対象として行っている21世紀出生児縦断調査で分かった『小学生の頃に体験活動や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情や外向性、精神的な回復力といった項目の得点が高くなる。』ということについて、どのような見解を持っているか</p> <p>(2) 社会全体で青少年の体験機会を創出することが必要であると言われていたが、行政として企業等にどのようなアプローチを行っているか</p> <p>(3) 子どもたちの健全な育成には多様な体験をすることが大切と言われていたが、家庭に対してはどのような啓発を行っているか。また、地域に対してはどのような啓発を行い、どのようなサポートを行っているか</p> <p>(4) 小中学校で実施されてきた学校行事には、儀式的行事や文化的行事、健康安全・体育的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事があるが、それぞれどのような目的で行われているのか。また、Withコロナにおいて、さまざまな学校行事が縮小、中止となる中で、その目的は達成されているのか</p>	

6 月 16 日	<p>(5) With コロナにおける青少年に対する体験の機会創出については、ある程度のリスクを覚悟して、将来の子どもたちの成長を総合的に考えて実施していくことが重要であり、子どもたちがさまざまな体験にチャレンジできるよう「意図的」「計画的」に体験機会の場を設けることが必要だと考えるがどうか</p> <p>3 社会教育士の有効活用について</p> <p>(1) 以前の一般質問で、『館長補佐や社会教育士を公民館に配置することについては、公共施設等総合管理計画に基づき、集会施設のあり方や再編整備を進める中で研究して参ります。』という答弁があったが、その後、どのような進捗があったか</p> <p>(2) 社会教育士を名乗るメリットをどのように考えるか。また、社会教育士の称号を名乗ることによって、まちづくりにどのように貢献できると考えるか</p> <p>(3) 社会教育士はどのような専門的スキルや能力を持っているか</p> <p>(4) 職員の自己啓発として、社会教育士の称号取得を推奨してはどうか</p> <p>4 オンライン教育の現状について</p> <p>(1) オンライン教育で効果的、効率的に学習が進められる単元や学習形態とオンライン教育では学びが深まらないことがあると考えるが、どのように整理しているか</p> <p>(2) オンライン教育には、講義型や録画授業型、対話型など、いろいろな形態があるが、尾道市内の小中学校ではどのような形態でオンライン教育が実施されているか</p> <p>(3) タブレットの持ち帰りによる学習はどのような状況か。また、タブレット活用に関するルールはどのようなになっているか</p> <p>5 コミュニティスクールの運営について</p> <p>(1) コロナ禍の中で、地域と共にある学校であるコミュニティスクールが本来の運営を実施することが難しくなっているのではないか。今後、どのようにして改善していく計画か</p>
-------------------	--

<p>6 月 16 日</p>	<p>(2) 今後、どのようなスケジュールで尾道市内の小中学校をコミュニティスクールとして指定する計画か (3) これまで指定されたコミュニティスクールの成果やメリットをどのように整理し、今後の指定に役立てていく予定か (4) 指定までの準備期間で、地域に対してどのような理解を得ていただくことが大切だと考えているか</p>
-----------------------------	--